

崇城大薬学部 入試に「離島」枠 11月実施

崇城大(熊本市西区)は17日、薬学部の2025年度入学者の入試に「離島出身者」枠を新設すると発表した。離島は医師や看護師に加え薬剤師も不足しており、地域医療に携わる人材を育成し地域が抱える課題の解決につなげたい考え。崇城大によると、全国でも珍しい取り組み。募集定員は5人。一般公募制推薦選抜(20人)の中に募集枠を設ける。出願要件は長崎、鹿児島、沖縄の離島にある小中高校に計3年以上在籍し、卒業後は離島で薬剤師として就業する意思がある人。

受験者は受験料3万円の全額と入学金30万円の半額を免除する。試験は11月17日、合格発表は12月2日の予定。崇城大は「地域連携と社会貢献は本学の中長期計画のキーワード。離島で働きたいと希望する学生を支援していきたい」としている。(後藤幸樹)

地域医療の人材育成



薬学部の入試に「離島出身者」枠を新設する
崇城大

崇城大薬学部に離島枠

25年度入学者、定員5人

崇城大（熊本市）は、2025年度入学者向けの薬学部の入試で、離島出身者が対象の募集枠を設けると発表した。医療が行き届き

にくい離島の実情を知る人材を将来の薬剤師として育て、離島医療の充実を図る狙いだ。

崇城大によると、薬学部では全国初の取り組みという。対象者は長崎、鹿児島、沖縄県の離島（沖縄本島を除く）にある小中高校に計3年以上在籍し、出身の離島で薬剤師として就業する意思がある人。3県以外の離島出身者は個別に相談して判断するという。

募集定員は5人。書類と

試験、面接で選考する。試験は熊本、福岡、鹿児島県

で11月17日、合格発表は12月2日の予定。
受験者は入学検定料3万円を免除し、入学金30万円が半額となる。年間の授業料が50万円、実験実習費が半額になる特待生制度「ミライク50」の選抜対象にもなる。問い合わせは同大入試課（096・326・6810）へ。

崇城大に「離島枠」

来年度入試から 薬学部に導入

崇城大学（熊本市）

は、来春の入学者が対象の2025年度入試から、薬学部で離島出身者の募集枠を設ける。卒業後に出身の離島地区で薬剤師として働く意思があることが要件となる。

募集定員は5人で、一般公募制推薦選抜の一部を充てる。長崎、鹿児島、沖縄県内の離島にある小中高校のいずれかに、合わせて3年以上在学していたことが条件。入学検定料（3万円）全額と、入学金（30万円）

の半額が免除となる。

同大入試広報部によると、離島などでは薬剤師を含む医療関係者が不足しており、同大の「地域連携と社会貢献」を掲げる中長期計画と照らして導入を決めた。離島が多い3県を対象としているが、担当者は「そのほかの自治体の離島出身者も個別に相談してほしい」と呼びかける。

選抜方法は書類、科目試験と面接で、入試は11月17日。合格発表は12月2日にある。（杉浦奈実）